



# NPO HELP PAPER

## 【市民活動のヒント】

### Vol.5: 事業の成果を考えよう。

アウトプットとアウトカムの違い、わかる？

アウトプットとアウトカム、そんな言葉を最近よく聞きませんか。結果と成果。なかなか、違いがわかりません。近年、NPOなどの事業評価でも使われるようになってきました。

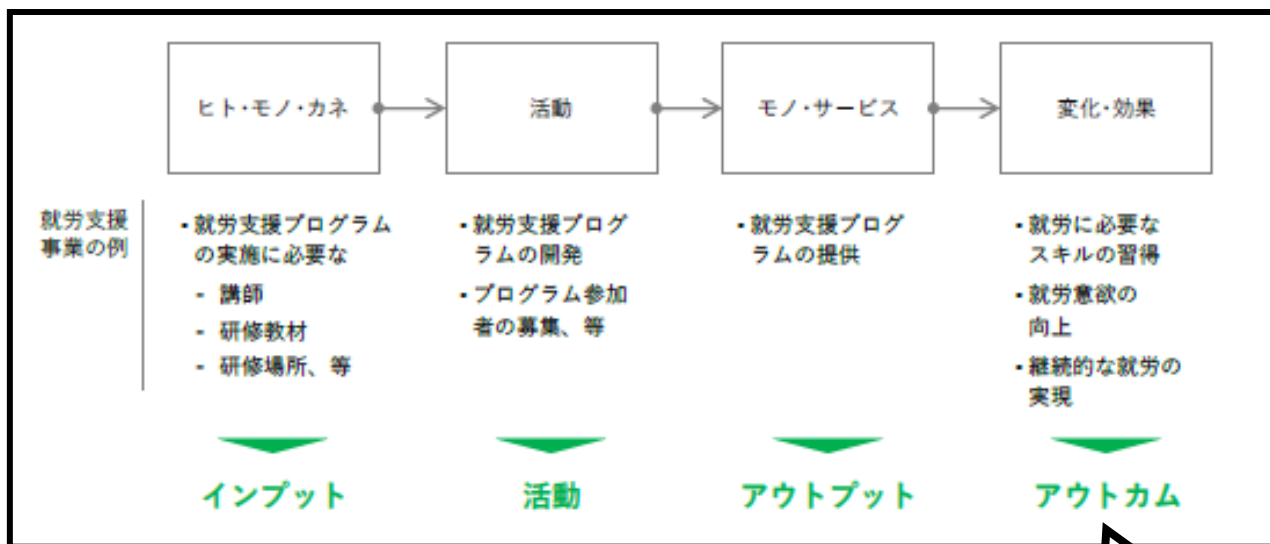
NPOも、企業も行政も、事業の評価というのは、非常に重要。その中で、実施する活動の成果やインパクトを高めたいのであれば、事業の評価を適切に行って、その結果を今後の戦略策定や、活動の実施内容にフィードバックすることが大切です。

よくPDCAサイクルという言葉を使います。「Plan(計画の作成)」→「Do(実施と運用)」→「Check(評価と検討)」→「Action(改善の実施)」という4つの手順を繰り返すことで、活動を改善し、より高い目標達成に近づけていくプロセスのことですね。このPDCAサイクルを回すにあたって重視したい考え方として、「ロジック・モデル」というものがあります。



## ●ロジック・モデルって何?●

ロジック・モデルとは、事業実施にあたっての「インプット」→「活動」→「アウトプット」→「アウトカム」の因果関係を論理的に示したものです。



※参考 日本財団「ロジックモデル作成ガイド」

事業や組織が生み出すことを目的としている変化・効果を「アウトカム」、その変化・効果を生み出すために提供するモノ・サービスを「アウトプット」、モノ・サービスを提供するために行う諸活動を「活動」、その諸活動を行うために使う資源を「インプット」と呼びます。なお、一般的に、「アウトカム」は「社会的インパクト」と呼ばれることもあります。

事業が目指す社会課題の解決された状態は何だろう？

編集発行

島田市市民活動センター

(市民活動支援業務：NPO法人クロスメディアしまだ)

島田市本通三丁目6-1 (島田市地域交流センター「歩歩路」内)

0547-33-1550

市民活動センターでは会議室などの施設利用に加えて、市民活動団体やこれから活動を始めようとする皆様を支援の場です。

【開館】年中無休

※年末年始(12月29日～1月3日)を除く

【時間】9:00～22:00

※市民活動センター利用21:30まで

【相談受付】

原則週3日(月・水・金)

10:00～15:00

※相談希望の日時はお気軽にお問合せ下さい。

## ●アウトプットとアウトカムの違いは？●

アウトプットは「事業の成果物や事業量」、アウトカムは「事業によって生じた変化や効果」と考えて良いと思います。事業を実施したときは、ついアウトプットにばかり目が行きがちですが、それによってどんな状態が生まれているのか変化を起こしているのか、というアウトカムに着目することが大事です。

<b>【アウトプット】</b> 「(自分たちの)生産したもの」 事業の成果物や事業量
<指標> 何を自分たちが生み出したか (主語は自分／結果)

<b>【アウトカム】</b> 「(受益者に)及ぼされたもの」 事業によって生じた変化や効果
<指標> 社会の生活や行動がどう変化したか (主語は受益者／成果)

自分たちが中心か、相手が中心かによってアウトプットやアウトカムを考えてみると少しは分かりやすくなるのではないのでしょうか？

### 【指標を考えてみよう】

#### ◆例えば…「就労支援」を目的とした「就労支援プログラム」の実施事業

この場合、「プログラム開催回数、年間〇名の参加」というのがアウトプット。

その成果として「就職率、資格の取得者数、継続就労年数」というのがアウトカムです。

#### ◆例えば…「交通安全を推進しよう」という目的での「歩道の設置」事業

この場合、「歩道を年度内に500m設置する」というのがアウトプット。

その成果として「交通事故件数が〇件減少する」というのがアウトカムです。

#### ◆例えば…「子育てママを応援」という目的での「セミナーの開催」事業

この場合、「参加人数、回数」というのがアウトプット。

その成果として「何かしらの取り組みを始めた人数、社会復帰した人数」というのがアウトカムです。

最近話題の社会的インパクト評価では、アウトカム指標を設定しており、内閣府の発表している資料では、社会的インパクトの定義が「短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の成果として生じたアウトカム」となっており、アウトカム重視なことが見て取れます。

## ●ロジックモデルを考えよう！●

自身の活動のロジックモデルを作ることは、シンプルのように見えてとても難儀します。

しかし、自分たちの事業や組織の内容やこれまでとこれからを考えることでの事業の振り返りや、ロジックモデルの作成を通して活動のメンバーや仲間と議論をすることによって、同じ方向を目指して頑張ることができるようになります。何より、自分たちの事業や組織が目指しているのはどこなのか？その為にはどんなステップを踏んでいけばいいのかといったことを考えることで、構造的に成果を定義することができます。

事業やプログラムの実施において重要なことは、アウトプット(結果)ではなくアウトカム(成果)を意識することです。対象としている受益者へどのくらい影響を与えたのかを常に自分たちに問いかけ続けることが必要でしょう。